



2023年4月29日

各 位

会社名 トヨタ自動車株式会社
代表者 取締役会長 豊田 章男
(コード番号 7203 東証プライム・名証プレミア)
お問合せ先 資本関連事業部長 森山 由英
(TEL. 0565-28-2121)

当社連結子会社による不正行為に関するお知らせ

当社の連結子会社であるダイハツ工業株式会社による側面衝突試験における不正行為が判明しましたので、お知らせいたします。

本件に関する詳細につきましては、別紙プレスリリースをご参照ください。

なお、本件に伴う当社連結業績予想への影響は軽微です。

以上

2023年4月28日

ダイハツ工業株式会社

側面衝突試験の認証申請における当社の不正行為について

ダイハツ工業株式会社（以下、ダイハツ）は、ダイハツで開発を行った海外市場向け車両（4車種）の側面衝突試験の認証申請における不正行為を確認いたしました。

お客様をはじめとするステークホルダーの皆様の信頼を裏切り、多大なるご迷惑・ご心配をおかけすることとなりましたことを深くお詫び申し上げます。

1. 経緯

本年4月に内部通報のあった不正について、以下の調査を行ったところ、通報通りの不正行為があったことを確認いたしました。

- (1)不正を行った疑いのある担当部署および関連部署へのヒヤリング調査
- (2)車両の現物調査
- (3)設計変更履歴や開発過程の試験結果等の開発経緯

2. 確認事項の概要

以下の車両の側面衝突試験において、認証する車両の前席ドア内張り部品の内部に不正な加工を行っており、法規に定められた側面衝突試験の手順・方法に違反があったことを確認いたしました。

<対象車種>

車名	生産開始時期	生産国	主な仕向地	販売実績(累計)※
トヨタ ヤリスエイティブ	'22年8月	タイ	タイ、GCC、メキシコ等	76,289台
プロドゥア アジア	'23年2月	マレーシア	マレーシア	11,834台
トヨタ アギヤ	'23年6月 (予定)	インドネシア	エクアドル	—
開発中の車種【1車種】	商品計画に関わるため詳細の開示は控えさせていただきます。			
合計				88,123台

※2023年3月末時点

<トヨタとダイハツとの役割>

トヨタ自動車株式会社（以下トヨタ）とダイハツ間のOEM供給契約・共同開発契約にもとづき、ダイハツが開発から必要な各種認証試験合格までを実施しております。

そのうえで、トヨタとして、当局に車両型式の認可の申請をし、必要な認可を受けた後、トヨタブランドで販売しております。

3. 対応と該当車両への影響

不正行為の事実が判明後、速やかに審査機関・認証当局に報告・相談の上、トヨタと協議し、認可対象国における出荷を停止いたしました。なお、審査機関・認証当局に報告・相談する中で、正規部品を用いた社内再試験において、側面衝突試験で定められた基準を満足していることを確認し、報告しております。

今後、審査機関・認証当局の立ち合いのもとでの再試験などを行い、側面衝突性能が法規に適合していることが確認されれば、出荷を再開いたします。

4. お客様への対応

出荷停止する車両につきまして、審査機関・認証当局の指導を受けながら、出荷を再開できるよう努めてまいります。現時点では、当該車種をご使用のお客様に、ご使用の継続にあたり、何らかのご対応をいただく必要はございません。

5. 再発防止に向けて

これまで調査を行ってきた内部調査委員会に加え、独立した第三者委員会を設置した体制で、本件内容の解明および真因分析、これに基づく再発防止策を取りまとめてまいります。

第三者委員会からの報告後、再度お知らせいたします。

以上

2023年4月28日

ダイハツ工業による側面衝突試験での不正行為判明に関する豊田会長コメント

このたび、ダイハツ工業株式会社(以下、ダイハツ)において、海外向け車両の側面衝突試験における不正行為が判明いたしました。

当該車両を現在ご利用いただいているお客様、販売店をはじめ、関係各所に大変なご迷惑、ご心配をおかけすることとなり、心よりお詫び申し上げます。

<弊社代表取締役会長 豊田章男のコメント>

この度のダイハツ工業の不正は、クルマにとって最も大切な安全性に関わる問題であり、お客様の信頼を裏切る、絶対にあってはならない行為だと思っております。

ご迷惑、ご心配をおかけしている世界中のお客様、すべての関係の皆様、心よりお詫び申し上げます。本当に申し訳ございませんでした。

本件はトヨタブランドの乗用車で発生した問題でもありますので、ダイハツ工業だけではなく、トヨタ自動車も含めた問題であると考えております。これから詳細な調査を進めていくこととなりますが、現場で何が起きているのか、徹底的に事実を把握し、真因を究明し、再発防止に真摯に取り組んでいくこととお約束いたします。

そして、調査でわかった事実については、包み隠さず、タイムリーに世の中の皆様にお知らせしたいと思っております。

私自身、2009年に発生した大規模リコール問題の際に、世界中のお客様に対し、トヨタは「逃げない、隠さない、嘘をつかない」ということとお約束いたしました。それにもかかわらず、グループ会社で、こうした問題が発生したことを大変重く受け止めております。

今後、トヨタおよびグループ各社のクルマづくりのオペレーション上の問題については、執行トップである社長の佐藤が責任をもって改善に取り組み、ガバナンスやコンプライアンスに関する部分は、会長であり、リコール問題を経験した私自身が責任をもって取り組んでいきたいと思っております。

トヨタグループ一丸となって、一日も早く、お客様の信頼を取り戻せるよう全力で取り組んでまいります。

ダイハツ工業のリリースはこちら

<https://www.daihatsu.com/jp/news/2023/20230428-3.html>

以上